

広報 いへや

9月号

わが島の夏を満喫
保健だより
いへや村通信
村人会と村民の触れ合いを
若い力で美しい伊平屋村に
伊平屋島サイクリング
北部市町村収入役研修会
これで私もバコン通!?
2001年参議院選挙
よつこそデビュー先生、さよならニック先生
永年の功績に対し表彰
伊平屋村自動車等放置防止条例制定
村長室の窓から
村の情景

No.125

**わが島の夏を満喫
みんなよく遊び、そして笑い、楽しんだ**



最近の使い捨て文化の氾濫や国民生活の向上、経済規模の拡大に伴って家庭や企業などから出されるごみの量の増大、産業構造や生活様式の変化などに伴うごみの質の多様化などによって、ごみ処理、つまり廃棄物処理を巡る問題は年々深刻になってきています。

我が国でも、これまでの「廃棄物を燃やして埋める処理」から「循環型の廃棄物処理」への抜本的な転機に向けての大きな一歩を踏み出したところであります。

本村においても、住民の暮らしが便利になり、豊かにならばなるほど日常生活や生産活動に伴って発生する廃棄物の量が増大し、また多様化しており、その適正処理の確保が生活環境や自然環境の保全を図る上でますます重要な

課題となってきております。

私は平成十三年度をごみ問題元年と位置づけ、ごみ問題解決に全力で取り組む決意を新たにしているところであります。

皆様もご存じのとおり放置車両については、これまでの処理に加え放置自動車発生防止のための条例を去る六月に制定しました。一時仮置き場を設置して、定期的に島外移送等の適正な処理をし、村内の景観の美化を図り、住み良い集落形成を目指すことにしています。また、ごみ処理問題解決に向け、平成十三・十四年度でごみ焼却施設を整備することにいたしました。現在、伊平屋村一般廃棄物ごみ焼却施設用地及び機種選定委員会で御審議をお願いしているところであります。

考えてみますと、自分で出したごみは自分で処理することができれば、現在のようなごみ問題は起こらないこととなります。この事はごみ問題の基本だといえます。本村の場合もごみ焼却施設を整備してもごみ処理問題は解決いたしません。大量消費・大量廃棄といった社会システムを見直し、リサイクルの推進などにより、ごみを出さない社会へ転換させるための、村民一人一人の意識改革が今こそ問われているのです。共にごみ処理問題に取り組みゼロエミッションアイランドへの一歩を踏み出したいものであります。

2001年8月20日
台風11号接近の中 村長室にて
伊平屋村長 西銘真助

日付	曜日	行事	備考
9月1日	土	旧盆(中日)	
9月2日	日	旧盆(お送り)	
9月3日	月	JAL904 14:45~17:05	赤坂東急泊
9月4日	火	11:10 北部振興協議会 JAL907 15:30~18:00	首相官邸
9月5日	水	15:30 県土木部との行政懇談会	ホテルゆがふいん
9月6日	木		
9月7日	金		
9月8日	土		
9月9日	日	16:00 市町村合併問題研究会	本部町
9月10日	月		
9月11日	火		
9月12日	水	17:55 仲村副大臣懇親会	
9月13日	木	県技監視察	
9月14日	金		
9月15日	土	15:00 村敬老会	離島振興総合センター
9月16日	日	9:00 野南小中運動会	
9月17日	月	9月定例議会	
9月18日	火	9月定例議会	
9月19日	水	9月定例議会	
9月20日	木	9月定例議会	
9月21日	金	9月定例議会	
9月22日	土		
9月23日	日	伊平屋小学校・伊平屋中学校運動会	
9月24日	月		
9月25日	火		
9月26日	水		
9月27日	木	豊年祈願祭(我喜屋)	
9月28日	金	豊年祈願祭(田名・島尻・野南)	
9月29日	土	豊年祈願祭(前泊)	
9月30日	日		

伊平屋村人口動態

区名	世帯	男	女	合計
田名	123	170	180	350
前泊	98	154	147	301
我喜屋	161	234	209	443
島尻	125	219	192	411
野南	52	61	60	121
合計	559	838	788	1,626

平成13年8月1日現在

編集発行

〒905-0793 伊平屋村字我喜屋251番地 伊平屋村役場 総務課 担当徳田美恵
TEL: 0980-46-2001 FAX: 0980-46-2956 MAIL: tokuda@vill.ihaya.okinawa.jp
印刷 / 文進印刷株式会社 TEL: 098-994-5777

村の情景 Release No.4

ウミガメのその後



6月23日に産み付けられた卵達のその後を気に掛けていました。台風11号が襲来した8月末は、ちょうどウミガメが孵化する時期だといわれる頃。みんなヒヤヒヤしながら台風をやり過ごしました。

心配になった私達、日本ウミガメ協議会へ問い合わせをして1週間待ってから掘り返すと良いとアドバイスをもらい、8月30日にクワを持って行ってきました。

その結果、孵化したあとの卵の殻が見つかりました。めでたし、めでたし。



皆金魚すくい熱中。どの子もシンケン



漁協の屋台ではサザエの壺焼きも!



最年少は3歳の伊礼菜乃ちゃん(田名区)



特産品コーナーでは商工会の前里一美さんと、演芸商工班長の山内進さんが並んでパチリ

ここで、伊小の金管バンドについて紹介します。顧問の先生は志喜屋香織先生で、現在二十四名が活動中。今年四月に再編したばかりのできたてはやはやの部ですが、みんな明るくて素直な子ども達ばかりで、「毎日一所懸命練習していますよ」とは先生の言葉。『歌って踊れて合奏できる部』を目指しているそうで、音楽を聴くと、体が自然に動き出す感性豊かな部員達です。

その後、ステージは午後五時から始まる民謡ショーまでちょっと一息。そこで、会場内をのぞいてみると、金魚す

きくいやキックターゲットなどで無心に遊ぶ子どもたちの姿。そして大型テントの下、出店で買ってきた焼き鳥や海の鳥伊平屋ならではのサザエの壺焼きなどをおいしそうに頬ばる人、ビールを片手に楽しそうに語り合う大人たちも目に

つきます。それを本部席から見ると、まつり事務局の山川敬次さんと金城洋子さんが微笑みながら一言、「本当に晴れてよかった。あとはプログラムを消化して、成功に終わるのを祈るだけだね。これまでの苦勞が喜びに変わる瞬間です。うだるほどの暑さが残る五

時三十分、本日二回目のステージの開始。いへやまつりではお馴染みとなったサンサングの軽快な司会で、天神流玉ゆらの会の子どもたちが、日頃の練習成果を発揮すべく楽しそうに踊っています。民謡ショー、沖縄タレントアカデミーの皆さんによるショーと続き、いよいよ伊平屋青年会によるエイサー。太鼓やパーランクー、三線の音色が会場いっぱいに鳴り響き、今日のステージもラスト。その後、お楽しみ福引抽選会が賑やかに行われ、楽しいまつりの初日が終わりを告げてま



わが島の夏を満喫! みんなよく遊び、そして笑い、楽しんだ



天神流玉ゆらの会の演舞。皆、いい笑顔です

「今年は大丈夫かなあ。去年のようにほしくないからなあ」という会場設営に励むメンバーたちの声が聞こえてきた八月三日。そう、翌四日の土曜日、村民が楽しみにしている「いへやまつり」が始まるのです。去年は台風が普通盆踊り大会に身身してしまっただけに、今年は無事開催できることを願いつつ、六月から計画を練ってきました。しかし今年も近づいてきた台風九号。時折強く降る雨と強い風に去年の悪夢がよみがえり、スタッフ一同心配顔でしたが、願いが通じたのでしよう、午後には雨風ともに治まりました。これでホッと

安心。準備作業は順調に進み、あとは本番を待つのみ。四月当日は伊平屋の夏にふさわしいきれいな青空が広がる祭り日和となりました。そして本番、「ゆったりと見て遊ぶ」をテーマにした、いへやまつりのスタートです。オープニングセレモニーのあと、緊張の面持ちの伊小、中学校金管バンド部による盛大なファンファーレとシンバルが会場に響き、テーブルカットが行われました。

待ちかねたように、会場内に走っていく子ども達、ゆっくりと笑顔を見せながら歩いていく大人達を前に、伊小・中金管バンド部の皆さんの演奏の開始です。二曲目のミツキーマウスマーチの時には、緊張もほぐれ、楽しそうに演奏しているのが印象的でした。続けて三曲を演奏し、安心して



村長を中心にテーブルカット



かけ声とかねの音で皆必死です



英雄阿麻和利と護佐丸の対決



松明に火をつけていよいよ幕開け



網の準備も大詰め

夏も盛り、蝉時雨がやかましいくらいに響く八月十四日火曜日は旧暦の六月二十五日で、「六月カシチー（強飯）」、我喜屋区の綱引きの日です。この行事は古来より水稲の豊作祈願の祭りとして行われており、区民が楽しみにしている年中行事のひとつです。この日は例年通り公民館前で、午後一時過ぎから各戸稲わらを七束ずつ持ち寄っての子綱編みの作業。戸主の皆さん百二十名以上の作業は圧巻。さすが毎年のことだけあって慣れた手つきで、和気あいあいと綱が編まれていきます。そして、午後六時過ぎ、七本の子綱が編み終わり、長さ五十メートル、直径七十センチほどもある大綱二本が誕生しました。そこで、五時間以上もかけた作業は小休止。あとは、綱引きを待つばかりです。いよいよ本番の午後八時。区長の西江茂さんの挨拶のあと、今年の呼び出し行司、内村（西）の与那嶺清次さん、兼久（東）の金城清信さんの点呼で区民が勢揃い。さて、今年はどこが勝つか。並び立つ顔と顔はやる気満々の表情で

す。そして、一メートル五十センチほどもある巨大松明に火がつけられて幕開け。火の粉が飛び、勇壮なぶつかり合いで盛り上がる最中、古琉球の英雄阿麻和利と護佐丸の登場。扮するは、内村が金城信彦さん、兼久が末吉誠さん、さすがに経験を積んでいるだけあって、一つ一つの所作や見栄を切るのも堂に入っています。戸板を持ち、動かす大人八名も、興奮の極み。お互いに引き寄せられた大綱に力又手棒が差し入れられ、引く人々も、区民、村民、島外人が交じって一所懸命。結果は兼久の2勝1敗。今年も、「豊年」の年です。でも、これで我喜屋区の「六月カシチー」の夜が終わったわけではありません。今度は公民館横の広場に舞台を移しての沖縄角力大会です。きれいな白砂が敷き詰められた広場に、小学生のちびっ子から始まり、青年会、壮年、飛び入りも参加して、大盛りあがり第二弾です。どの参加者も力を出し切ったの好勝負が続きました。特に小学生の部では、可愛い孫の登場を楽しみ



ちびっ子角力もヒートアップ

に、お年寄りが大勢集まり、熱心に声援を送る姿が印象的でした。まさしく、老若男女、たくさんの人々が参加する祭りも、六月カシチー、我喜屋区ならではのといえるでしょう。そうして、午後十一時過ぎ、興奮と熱狂の祭りも幕を閉じ、区はいつものように、静かな夜を迎えました。我喜屋区の金城信康区長代理は、「このようみな全員参加型の祭り、なおかつ、綱引き行事を行っているのは我喜屋区だけなので、観光の目玉としてもアピールしていきたい。また、区民の歴史、楽しみ場としても、絶対残していきたいといけな祭りで」と力強く語っています。

今のままの素朴で、誰でもが参加できる我喜屋綱引き、来年も綱を引くことを楽しみにしていきたいと思えます。

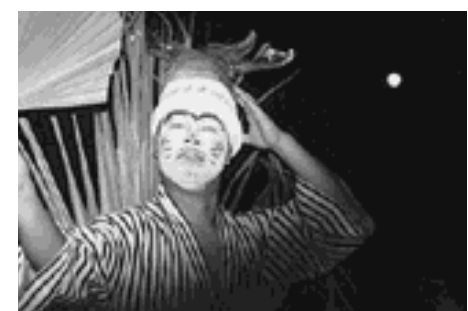
にぎやかな仲田ファミリーを引き継いで舞台に立ったのは、屋蔵太鼓と東太鼓。勇壮な太鼓の音が会場だけでなく、島いっばいに響き渡るように力強く太鼓を演奏する奏者たち。ドンドンと打ち鳴らされるその音は、村民の体だけでなく、心をも打ち震えさせたようでした。

その共演は、屋蔵太鼓代表の新垣英子さんの希望を、西泊さんが快く引き受けて実現したもの。父母の仲地富子さんに話をうかがうと、「子どもたちが誇らしげな顔をしていたのが嬉しかったですね。西泊さんは子ども達一人ひとりに握手をしてくださり、『大人になっても太鼓を頑張つて、屋蔵太鼓を残してね』と励ましてくれました。みんな大喜びで、とても良い思い出になりました。ありがとうございます。私も」と語ってくれました。西泊さんと屋蔵太鼓の子どもたちの共演の余韻が残るステージでは、いへやまつり最後のお楽しみ、福引抽選会が行われました。先ほどの興奮とは違い、会場は抽選券を見つめながら緊張の面持ち。司会のサンサンズが番号を読み上げるたびに、会場内から「当たった」「あゝまたはずれた」という声飛び交います。いつしか時間が過ぎ、有終の美を飾る花火の時間がやってきました。サンサンズのカウントダウンとともに打ち上げられる花火。じつと見つめる村民の皆さん。「花火が打ち上げられる瞬間は、まつりが成功に終わったという実感がありません。事情で外に出られない老人の方々からも、花火が上がったら今年もまつりが終わったんだなあと思う、私

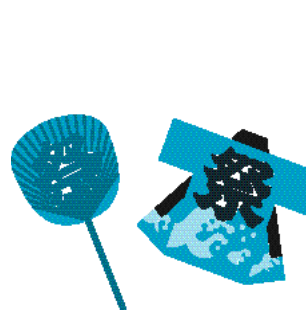
達と一緒に楽しめる時間ですよ、と言葉をかけられるんです。そして、まつりが終わると、季節の節目を感じますね」とは、まつり事務局の金城洋子さん。きれいな花火は、費用がかかるけれども、いへやまつりには欠かせないビッグイベントといえるのかもしれない。今年も、さらに、まつりの有終を飾ることがあります。まつりのスタッフは、まつりのゴミ袋をほどいて分別をはじめ、まつり会場の全てのゴミを燃えるゴミ、スチール缶、アルミ缶、それぞれ分別をしたのです。本当の意味で、いへやまつりが、村民の村民による村民のためのまつりとなったといえるのではないのでしょうか。まつり演芸商工班長の山内進さんによると、今年はトラブルもなく、村民からの評価も上々だったとのこと。最後に、もう一度事務局の金城洋子さんにいへやまつりの総括をもらいました。「今年の反省点は、ポスターが遅くて、告知の期間が少なかつたこと。来年は、ポスターを早く仕上げて、PR活動に



西泊茂昌さんと屋蔵太鼓の皆さんで感動のラスト曲!



青年エイサーを盛り上げるのは、チョンダラーの高良睦さん



まつりが終わったらゴミをも始末しました。カンの分別もきちんとやっています



福引きで一等を当てたのは、田名区の西銘裕子さん

Monthly report IHEYA ニュース&トピックス

月刊 いへや村通信



港に集合する村人会の皆さん

「みんなで作るうまら島いへや」をテーマに『クリーンデー IN いへや』が七月二十一日(土)伊平屋村、伊平屋村人会主催で行われました。

これは伊平屋村を、観光シーズンを迎える前にきれいにしようとして、村人会青年部が中心になって計画したものです。

本島に住んでいる村人が夏休みを利用して島へ帰って島の自然を満喫し、観光シーズンを

クリーンアップ大作戦 村人会と 村民の触れ合いを

控えた村をきれいにした上、村民との交流を図るといふ、かつてない計画。

もちろん愛着ある伊平屋を、今のうちに子ども目の目に焼き付けておきたいという、若き村人会員の親心もあります。また村への貢献を図る良い機会であり、気の置けない仲間同士、酒を酌み交わしながらの交流会での語りも楽しみのひとつ。

村にとっても、本島在住者の方々との交流は良い刺激になるうというもの。それぞれの思いを胸に本番を迎えることとなりました。

さて当日。「暑すぎて体力が持たない。心配だ」という声が聞かれるほどの晴天。家族連れを中心とした少数精鋭の一行がやってきました。出迎える村民は二十代から七十代までの百名。総勢百五十名での開催となりました。

そしてクマヤ洞窟からの清

掃スタートです。その後米崎海岸へ移動、炎天下、清掃活動に励みました。「皆生き生きして清掃をしていましたよ。村人会の人も島の人も一所懸命にやりました」とは、当日一行の世話をした仲川実夫さんの話。また、「真つ青な青空の下、作業を終えて飲むジュースはおいしかったですね」とも。

無事午後五時半に作業が終了。午後六時半から島尻公民館での「語りう会」が開催され、村民、村人会合わせて百名ほどの方々が集まりました。この企画は互いに語り合い、親睦を図ろうというもので、野甫一郎村人会会長は挨拶で「一年に一度は島に来てきれいにし、そして、島人との交流を今後も続けていきたい」と語りました。

参加した人々が満足し、島の時間を満喫した表情が印象に残るクリーンアップ大作戦でした。来年は皆さんも参加してみませんか。



島尻公民館での語りは夜更けまで続く



米崎海岸でのゴミひろい



クマヤ洞窟もきれいになりました

伊平屋中学校保健だより 平成13年8月20発行

SING SING 8月号

7月17日に、学校保健委員会協議会が開催されました。伊平屋3校のPTA・学校・村会青年部の代表が参加しました。この会で、伊平屋の子供達の健康情報を初めました。今日の保健だよりは、伊平屋の子供達の健康情報を取り上げます。

① どんな健康問題があるの？

	治療が必要なむし歯	貧血	肥満	視力
野間小中学校	★	○	○	○
伊平屋小学校	★	○	○	○
伊平屋中学校	★	○	○	○

★ 肥満、ほとんどの児童生徒に当てはまる健康問題です。
○ 肥満、一部の児童生徒に当てはまる健康問題です。

※ 4年の子供達の健康情報は、ほとんどの子供達が『むし歯を治療していない』といふことです。

② むし歯のある子供の数は？

伊平屋3校

小・中・高に在る子供の8割が『むし歯』を治療せずそのままにしています。

なし 30人(7%)
あり 192人(79%)

伊平屋村の幼児

1歳6ヶ月児の15.4%に『むし歯が最も多いむし歯』があります。そして、3歳児になると…80%に急増しています。

平成12年度の幼児歯科検診結果より(資料提供：村会保健課)

③ なぜむし歯を治療しないといけないの？

むし歯は自然には治りません

痛みがさがりすぎると、口臭・歯肉炎・むし歯の原因になります。悪化する前に、歯科診療所できちんと治療しましょう!! 歯科診療所では、むし歯治療以外に、歯を強くしむし歯を予防するため、フッ素塗布も行っています。

自分の健康は自分で守る!!

私たちの子供のはほとんどが、中学校を卒業したら、島から旅立ちます。親元にいる間に規則正しい生活リズム・バランスの良い食生活を身につけることが、その後の生活の基盤になります。『自分の事は自分で責任をもって行う』『自分の健康は自分で守る』という大人に育てるためにも、むし歯予防はしつけの一部と考えています。

★ 栄養豊富な学校給食!!

品名	給食費
ビシロ-C	165
ビシロ-B	165
ビシロ-A	165
魚	100
鶏肉	165
豚肉	120
牛乳	105

★給食費(1日あたり)
小学生 148円 中学生 182円

★栄養豊富な給食
1食分の栄養摂取量を100%とすると、学校給食は5のグラフの通り、とても栄養価がすぐれています!

★給食の調状
野菜・小豆を使った料理・かんきつ類が盛りがちです。そのため、成長に必要な栄養素が不足がちです。子供達は、今、成長期にいます。現在・将来を健康で楽しく過ごすためにも、偏食を直し、何でも食べるようになってほしいものです。

七月二十四日から二十五日の二日間、離島振興総合センターにおいて、平成十三年度の北部市町村収入役・出納職員研修会が行われました。

この研修会は、北部の九市町村の収入役・出納職員が年に一回集まり、会場は伊江村・伊是名村、そして本村の三村持ち回りで行われるもの。

今年も三年ぶりの研修会とあって、伊礼幸雄収入役と担当の諸見まり子出納員も張り切って準備していましたが、あいにくの決算期にぶつかってキャンセルが重なり、三十名の予定が十六名の参加に止まるというハプニングがありました。

しかし、研修の内容は出納業務のあり方、「コンピュータ導入に伴う業務の改善点」、事務研修のあり方、工資金支払い業務について等々、とても濃いものであったようです。

他にも、当村の出納室の視察

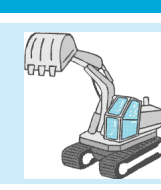


北部市町村収入役研修会 北部の九市町村の出納業務 のありかたを話し合い

や文書整理やコンピュータの使い方、ファイルのつくり方、監査のやり方、流れなど、お互いに説明したり、質問したりと、研修会ならではの光景が続きました。

研修を終えた諸見まり子さんに聞くと、「お互いの現状や悩みを知ることで、とても良い機会です。また、出納員同士の意見交換や報告もできる、勉強の場ですね」と、研修会の意義を語り、来年は講師の先生をお呼びしての研修会が伊是名村で開かれるので是非参加したいと思えます。何よりも、刺激を受け、励まし合いながら、仕事の向上に結びつけられるのがいいですね」と、抱負を語ってくれました。

貴重な研修の結果を是非、これからの出納業務に生かしてもらいたいですね。



青年団クリーンデー 若い力で 美しい伊平屋村に

「村を盛り上げるためにも、とにかくやってみよう」と、気運が盛り上がり、七月二十八日土曜日に実行されたのは第一回青年団クリーンデー。

これまで、伊平屋村青年団協議会の行っていた活動は、旧盆エイサーで道ジュネーすること、小中学校でのエイサー指導、そして、祭りでのイベント出演など。それ以上に、新たな青年団活動として何ができるかを、役員で何度も話し合ってきました。



カンカン照りの海岸は暑い



ゴミがこんなにたくさん集まりました

た。その結果、村をきれいにしようと決まったというわけ。

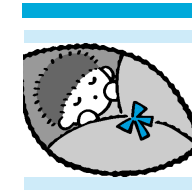
「私たちも、微力ではありませんが、村のために何かをしたい、しなければならぬと思うたのが、今回の清掃活動に結びついたのです」とは、青年団協議会会長の新垣晃弘さんの言葉。エイサーやイベント出演だけでなく、地道な活動でも伊平屋村を活性化させたいという願いのもとに計画・立案された今回の清掃活動は、青年団の活動

範囲を広げるならいもあって、三十名の団員が参加しました。

そして、七月二十八日、伊平屋村でいちばんの観光スポット、米崎海岸。当日は朝から容赦なく照りつける太陽のもと、気温も三十度を越す絶好(?)の清掃日和。「暑いなあ」と少しは暑くてうれいかなあ」といつ泣き言も入りましたが、そこは若き満開の青年団、九時のスタートから精力的にゴミを集め始めました。

何気なく歩いている分にはきれいに見える米崎海岸も、「きれいにするぞー」という気合いのもとで見るといろいろなゴミでいっぱい。缶やビン、プラスチック容器、発泡スチロールなどの他、蛍光灯や電球などの危険ゴミも目につきます。

「ゴミを拾い集めて、終わったのがちょうど十二時。三時間あまりの時間で拾ったゴミの量は、大きなゴミ袋三十袋。中には外国からの漂流物と思われるゴミもありましたが、米崎海岸に直接捨てられたとわかるゴミが大半を占めていました。清掃が終わってホッとする団員一同。しかし、積み上げられたゴミ袋の山を見て、簡単にゴミを捨てて



IT講習会 これで私も パソコン通駭

「ITって何だろう。よく聞くけどわからない」とこのような声をよく耳にします。でも、インターネットもメールもやってみれば簡単。どうしてあんなに敬遠してたんだろう、と思うに違いありません。

そこで、村民の皆さんがITに関する基礎的な技術を習得してもらつてを目的に、教育委員会主催の第一回IT講習会が、六月十九日から二十一日まで離島振興総合センターの図書室で行われました。

婦人会を対象に行われたこの講習会は、二十名の定員に対し、受講した方が二十三名。年齢層も二十代から五十代と幅広く、村内でもITに対する関心が高まっていることがわかります。浦添市から講師を招いての講習会は、初日は開講式のとパソコン操作の基本操作、二日目が入ターネット入門及び活用等、最終日の三日目が

あなたも参加してみませんか
伊平屋島の自然を満喫できる
伊平屋島サイクリング

昭和六十二年に開催された沖縄海邦国体の自転車競技開催を契機に、サイクルスポーツを通して地域作りを目指して行われている、「ツーリング」が北部十二市町村をコースに行われます。

「熱帯の花となれ、風となれ」をテーマのこの大会で、北部地域における観光・文化の振興等の地域づくりや健康・体力の増進、国際交流・協力等の増進に寄与することを目的に、伊平屋島サイクリングが開催されます。

つきましては、左記の通り参加者を募集しますので奮って応募下さい。

大会期間
十一月(日)土(二)日(日)
募集期間
九月三十日まで
応募方法などは、
〇九八〇(五四)三一七四
金城様まで

はいけない。私たち村民が守らなければきれいな伊平屋村にはならないんだ。」「村民一人ひとりの自覚が、ゴミのない島を作り出すんだ」という感想を持ったようです。

作業を終えた新垣会長に聞くと、「こんなにたくさんさんのゴミが出るとは思ってもみませんでした。」「ゴミ問題について改めて考え直す良いきっかけになったと思います。この清掃活動を始めたとして、このような活動を続

けていきたいと団員同士確認することができたので、これからも頑張っていきます」という力強い言葉が返ってきました。

その後は、夕方からバーベキューパーティ。皆で清掃の労をねぎらつと共に明日への活力に、また参加した子どもたちは食事のあと、花火などをして楽しみました。

こうして青年団クリーンデーはにぎやかに幕を閉じていきました。

電子メール入門及び活用、そして閉校式というメニューで行われました。

「ITって何ですか?」から始まった第一回IT講習会。受講者は熱心にパソコンに取り組み、操作する指先も一日目より二日目、そして三日目と次第に早くなり、隣同士メールを楽しみまでに上達しました。「できた」「本当に届いた」と子どものように喜ぶ皆さんを見ると、「こちらまでうれしくなつてしまつほど。」

全員が修了書もらった閉校式では、「次はいつですか」「もっとレベルの高いこともできるんですか」「パソコンを買って家でインターネットやメールを楽しみたいのですが」と意気込みを感じさせる質問が相次ぎました。

皆さんも次の機会に参加してみたい。十月中を含めて年内に2回予定されていますよ。



ちょっと緊張ぎみ



先生の言うことを聞き逃さないよう皆シンケン



毎日さわらんと覚えられないさー



伊平屋村自動車等放置防止条例制定

平成十三年七月一日から、伊平屋村自動車等放置防止条例が施行されました。この条例は、路上や原野等における自動車や農業機械の放置を防止することを目的として制定されたもの。伊平屋村では、廃車する自動車や廃棄する農業機械については、一時保管場を設けて定期的に海上輸送しなければなりません。

過去、その島外撤去費用については村の予算で負担していましたが、いつまでもこのような状況では財政を圧迫し、他の財政の負担につながります。

そこで本年度を最後に、放置自動車・農業機械の一斉撤去を村の補助事業でもって行い、その後廃棄する自動車・農業機械については、下表の処分手数料を徴収します。その施行時期は、平成十三年十一月に予定している島外撤去（海上輸送）後とします。

今後は、放置自動車等のない美しい自然と、良好な生活環境を取り戻すよう、村民のご協力をお願い申し上げます。

自動車等の種類	車体の大きさ等	料 金		備 考
		一 般	自動車修理業者	
大型自動車		45,000 円	58,000 円	
大型特殊自動車		45,000 円	58,000 円	
普通自動車	道路交通法施行規則第 2 条の定めるところによる。	37,000 円	48,000 円	最大搭載量 5 トンまで
		25,000 円	32,000 円	最大搭載量 4 トンまで
		18,000 円	23,000 円	最大搭載量 2 トンまで
		11,000 円	14,000 円	乗用車・バン
		6,500 円	8,000 円	軽自動車
		2,000 円	3,000 円	耕耘機
小型特殊自動車		6,000 円	8,000 円	トラクター
大型自動二輪車		2,000 円	3,000 円	
普通自動二輪車		2,000 円	3,000 円	
原動機付自転車	道路交通法施行規則第 1 条の 2 に定めるところによる。	750 円	1,000 円	
農 機 具	農業機械化促進法施行令第 3 条第 1 項第 2 号及び第 5 号の定めるところによる。	5,500 円	7,000 円	乗用型田植機 コンバイン

次の各号の定めるところによる

- 茨 自動車税又は軽自動車税の免除を受けている者 免除
- 芋 伊平屋村が所有する自動車等 免除
- 鱈 災害により、住宅が全壊若しくは全焼した世帯の所有又は使用する自動車等(災害を受けた年度につき 1 台に限る) 免除
- 允 生活保護世帯 免除
- 印 公共のための保管している自動車等 免除
- 咽 社会福祉事業を行う公益団体が所有する自動車等 免除

その他詳しいことは下記の電話にお問い合わせ下さい。

沖縄総合事務局陸運事務所 緯 098-877-5111
 沖縄県自動車税事務所 緯 098-879-1627
 沖縄県陸運協力会 緯 098-877-5142



二〇〇一年参議院選挙

投票方式も ミスなく終了

七月二十九日(日)、二〇〇一年参議院選挙が行われ、今年初の投票は新しく導入された非拘束名簿方式、初めての方式のため心配されましたが、我が伊平屋村ではさしたる混乱もなく、無事に開票作業が終了しました。

今回の選挙は投票率六六・七五(六二・四五)%、投票者数が一一八二人中七八九人(一〇八人中六九二人)。注(一)は前回の数字。これは、いつもの選挙よりマスコミが多く取り上げたこと、新選挙方式によって、候補者が表に出るようになつたことが要因で投票率が上がったのだらうと村選管では判断しています。

そこで、今回行われた選挙について、村選管の比嘉幸四郎さんに話を伺いました。

「開票作業を円滑に進めるため秘密兵器として弁当の折り詰めパックを用意したりと万全を期しました。開票の人数も、十名に対応するのですが、今回は二十名に増やすなど、いつも以上に気を遣いましたね」と語る。実際の開票作業状況は「普通は午前十一時頃には終了するが、今回は午前三時までかかりましたね。これは県選管の開票作業終了と同じ時間でした」。やはり大変な作業だったようです。全体を通しての感想は「誘導がきちんとできたお陰で投票する方々も戸惑うことなくスムーズに行うことができました。また大きなミスや問題もなく、無事終了することができました」とのことでした。

何事もなく、開票作業が終わった今回の参議院選挙。このよつな実務者に、私たち有権者も感謝したいものです。

「よつね デビッド先生、さよつなら ニック先生」

「こんばんは、初めましてデビッドです。たどたどしい日本語ながらも、しっかりとした発音で挨拶するのは、A-L-Tとして派遣されて来たデビッド・ロスウェルさん。先生は、アメリカ合衆国オレゴンシティ生まれの二十二歳。

来年の七月まで一年間、お世話になるので、西銘真助村長をはじめ、伊差川肇教育長、名嘉徳佑教育委員長、真栄田義嗣伊中学校の他、十五名が集まり、八月二日歓迎会を開催しました。流暢な英語で挨拶した村長のあとは、教育長、教育委員長が慣れない英語を駆使(?)し、「よつね伊平屋へ、一年間頑張ってください」と挨拶。それから酒を酌み交わしながらの懇談。デビッド先生進んでお酒を注いで廻り、懸命に話をしていました。

ところで、もつとり主役がいます。七月で任期を終えたニック先生です。ニック先生は

伊平屋村の自然と人情を楽しみたいと滞在していたので歓迎会に招待されたのです。ニック先生は「伊平屋の自然はとても素晴らしい。機会があればまた来ます」と挨拶し、参加した

方々をゾーンとさせる一幕もありました。

去る人あれば来る人あり。ニック先生の活躍を期待し、デビッド先生と共に有意義な一年を過ごしましょう。

永年の功績に対し表彰

七月三十日(月)、名護市宮里公民館において、北部地区老人クラブ連合会表彰式が行われました。これは、地域における老人クラブ及び老人福祉事業のために功労があり、その業績が他の模範となる個人故人、現存者を問わず、団体を表彰するもので、本村からは、島尻支部の故前田芳次郎さん(代理で前田ヨシ子さんが受け取り)、我喜屋支部の前里源榮さん

が表彰を受けました。お二人は、老人クラブ会長として五年以上勤続し、老人クラブの進展の功労顕著であると認められ、推薦されました。表彰された前里源榮さんは、「身に余る光栄です。この表彰を重く受け止めて、これからも楽しく、健康に気をつけて老人クラブ活動に励んでいきたい」と語っています。おめでとつございました。これからもお元気で。

